

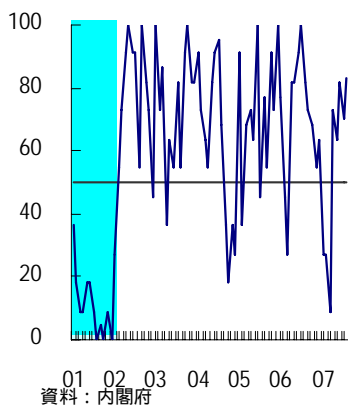
# MRI Daily Economic Comment

Mitsubishi Research Institute, Inc.

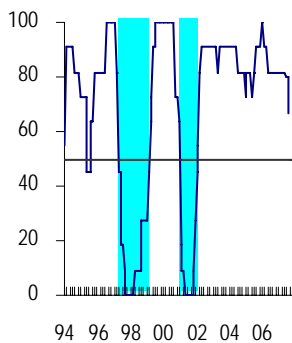
November 6, 2007

## 景気動向指数（9月） -好調な一致指数、懸念される先行指数-

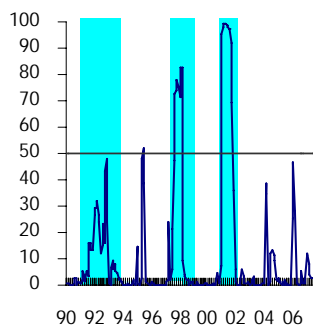
図表1 6ヶ月連続 50%超の一致DI



図表2 ヒストリカルDIの動き(暫定値)



図表3 Hamilton型景気後退確率



内閣府から発表の「景気動向指数」(9月速報値 11月6日)によると、景気の現状の方向感を示す一致指数DIは66.7%と、基準値である50%を6ヶ月連続で上回った。その一方、半年ほど先の景気動向を示す先行指数DIは全ての指標がマイナスとなる0%と2ヶ月連続で50%を下回った。

一致指数の個別系列を見ると、商業販売額(卸売業)がマイナスを継続し、有効求人倍率が保合いからマイナスとなったものの、投資財出荷指数がプラスに転じ、生産指数(鉱工業)、鉱工業生産財出荷指数、大口電力使用量、所定外労働時間指数(製造業)、商業販売額(小売業)、中小企業売上高(製造業)の6系列が引き続きプラスとなった。一方、先行指数の個別系列では、最終需要財在庫率指数、新規求人数、消費者態度指数、日経商品指数、長短金利差、東証株価指数の7系列が引き続きマイナスとなったことに加え、鉱工業生産財在庫率指数、耐久消費財出荷指数、中小企業売上げ見通しD.I.についてもプラスからマイナスへと転じた。

なお、景気動向指数の中で、景気の量感を示すCIの先行指数は漸減傾向にあるものの一致指数は依然として強い。加工指標のヒストリカルDIも66.7%(暫定値)と50%超を継続、CI一致指数にHamilton型モデルを適用した景気後退確率も2%程度となっている。

9月の景気動向指数は、一致指数と先行指数に乖離が生じたことが特徴である。好調な鉱工業生産指数に代表される一致指数に関しては、予測指数の動きからも今後も当面は好調さを維持することが見込まれる。一方、先行指数に関しては、サブプライム問題に端を発する為替や株式市場の混乱、原油や穀物価格の上昇等、家計や企業のマインドにマイナスの影響を及ぼす要因が増加しつつあることにも留意が必要である。